

Our Life No.127号

* 内容 *

- 2019年度・24年の節目の実績を振り返るp.1
- 焼津地区の「つながる・ささえあうご近所さん」事業協力からの検証p.2
- 2020年度は「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、「福祉文化はご近所福祉から」を掲げるp.3
- 事務局日誌拝見p.4



謹んで、新春の祝詞を申し上げます。

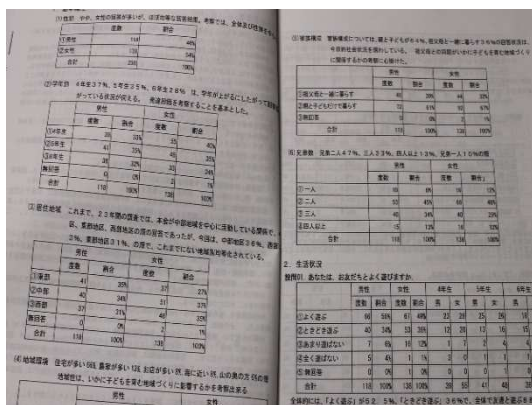


本会 2019年度の実績を振り返る テーマは“子ども”を地域で育む “静岡発 福祉文化の創造”を呼びかけて24年、その手応えを問う

2019年度は、活動テーマを「子どもの福祉文化を創る—子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり—」として、ここまで取り組んできた。いま、希薄化・弱体化している「家庭・家族機能」を検証するとともに、地域を家庭化する「子どもを育む地域づくり」を福祉コミュニティの再構築として、「真の子どもの居場所」を議論し合い、「子供を取り巻く環境と福祉文化」を検証し、「静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを地域における住民主体の「地域総合型学習」により論議してきた。特に、「調査研究活動」では、大人対象の調査と子ども対象の調査を2年がかりで取り組むことができた。また、17年前に中部ブロックである静岡県裾野市で「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」が開催以来、このたび、愛知県名古屋市・中京大学名古屋キャンパスで「第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会」（11月30日・12月1日）に、本会会員でもある4名が学会会員として、実行委員会（32名）委員として、2月の準備委員会から関わり、見聞を広めた。

そして、24年間の本会の福祉文化実践活動から、3つの実践発表ができた。こうした、尊い機会を通じて、近隣県域との連携をさらに深め、新たな時代を「地方発 福祉文化の時代」となるよう、広く県民に働きかけていきたい。これまでの9か月の活動実績では、

◇委員会 6回 開催 ◇公開型研修会開催 第1回（5月18日）「子どもと福祉文化を語ろう」、第2回（8月3日）「地域の子どもの支援の実践に学ぶ」、第3回（1月11日）「大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わる ホットとする地域とは」（開催決定） ◇「第18回静岡県福祉文化研究セミナー」開催（11月16日）、◇調査研究活動「子どもを取り巻く地域環境 その意識と実態調査」、◇広報・啓発活動『OUR LIFE』の発行（現在までに、第122号～127号まで発行）、今後、第128号を3月末までに発行予定。◇関係・団体との連携協働（日本福祉文化学会及び中部東海ブロック会員との情報交換、静岡市ボランティア連絡協議会、ふじのくに未来財団、焼津福祉文化共創研究会等）。こうした、実績を基に、2020年度・25年目に取り組みたい。



静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業を基に 「子どもを育む地域づくり」を活動テーマに現地研修・調査・啓発学習に取り組む 焼津地区の「北川原 つながる・ささえあうご近所さん！」事業協力からの検証

去る2019年12月22日(日),焼津市港第14自治会第12町内会主催の“北川原”つながる・ささえあうご近所さん!「みんな、みんなおいで!クリスマス&お正月を創る集い」が開催された。本会は、「焼津福祉文化共創研究会」管内福祉施設連絡会、子供会及び新和会と共に、協力団体として「協働」による取り組みをした。

当地は、400年の歴史文化を今につなぐ地域。6年前は64世帯の地域が20年以上続く区画整理事業により、新興住宅地域化し、なんと、この1年間で16世帯がご近所さんになり、127世帯となっている。

これから、ますます新旧混住地域住民同士の交流を深めあうことが求められる時代を迎えている。日頃から、会話の絶えないご近所さん同士のふれあい交流事業をこの年末の時期に創り、さらにふれあう、ささえあう、つながる地域づくりをめざし災害にも強い地域づくりを日頃から心がけることを目的に集いを開催した。

この事業は、歳末たすけあい募金助成事業により取組み、当地区では3年目の事業実施である。本事業を開催するに当たり6つの着眼項目を掲げている。(1)大規模な区画整理事業により、新興住宅地化した「第12町内会」の新旧地域住民のふれ合い交流の機会を創り、支え合える地域の絆づくりをめざす。(2)歳末助け合い助成事業の趣旨を充分理解し、地域社会への感謝をこめて取り組む。(3)町内会、子ども会、新和会、企業、団体...etc.との協働による地域づくりの場を創る。(4)若い世代の世帯の積極的な事業参加をもとに「北川原の伝統文化」を継承する機会とする。(5)“ご近所さん”の啓発啓蒙を図り、地域コミュニティのあり方を探る。(6)伝承あそび(コマ回し・折り紙等)を通じて、長寿者と子ども達とのふれあい交流の本事業を通して、地域ぐるみの思いやりの心を育む。本事業を開催するに当たり、関係団体の打ち合わせ会を積み重ね開催した。焼津市社会福祉協議会の出席を要請し、「社協とは」、「赤い羽根共同募金とは」、「歳末たすけあい募金とは」...etc.、「住民福祉教育」ともいえる学習の場を担っていただいた。

若い世代家族世帯が多くなり、地縁団体として、町内会の「組長」の役割を担う時代を迎えているため、こうした事業を通じた、実践的体験的学習の機会として、意図的な場を再三設けた。世代を超えたふれあい交流の場を設けること、親子がしっかりと子どもと向き合う意図的な場を設けることにも心掛けた。子どもを育む地域環境とは何かを、今回を重視した。

プログラムの構成では、「楽しい楽しいクリスマス&お正月を創る」と題して、近所の介護事業所職員の協力を得て、手あそびゲームや楽しい歌・福祉小話を演じていただいた。当日の参加者は、0歳から91歳の幅広い年代層が大人56名、子ども50名計120名が、やや天候不順ではあったが、和やかな雰囲気の中で学び合った。その後、「みんながはまっちゃう コマまわし」では、参加者が夢中になり、世代を超えたふれあい交流をした。

「クリスマスツリーづくり」では、「世界に一つだけのクリスマスの飾り物」に集中。つくり終わった作品を大手にした子どもたちを囲んで「全員集合・記念写真」を撮り、3時間半に及ぶ集いが終わった。子どもたちが大きく



なったときにこの「集い」がどの様に語り継がれていくかである。

2020年度は、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、「福祉文化はご近所福祉から」を掲げる 若い若者の意見を基に作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を地域づくりに活かす

本会は、今から4年前の2015年度の活動テーマを「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」として、数々の福祉文化実践活動に取り組んだ。

2020年度、25年目の節目を迎える「静岡福祉文化を考える会」の原点を今一度再確認する。

その設立は、1996年3月 浜松市プレスタワーと「浜松こども園」をメイン会場とし、2日間に亘り開催された「第11回 日本福祉文化学会・静岡公開型現場セミナー」がきっかけである。阪神淡路大震災の復興委員会の委員として、阪神大震災の尊い体験をして、当時幅広くご活躍されておられた、日本福祉文化学会初代会長一番ヶ瀬康子先生が「福祉、ボランティアを特別な領域と捉えることなく、自然な活動で地域を築く文化の次元まで引き上げたい」「その国の高齢者或いは障害者の方々の状態を見ると、その国の文化の程度が分かる」と、チャーチル元首相の言葉を引き合いに基調講演「21世紀に向け福祉文化を拓く」の中で熱く語られたことや、各分科会で、全国各地から参集された350名余の参加者の熱心な議論や思いが、1996年9月1日「静岡福祉文化を考える会」を立ち上げ「静岡発 福祉文化の創造」を掲げて、2020年度は25年目節目を迎える。結成以来、その活動の理念を、「第一に、福祉行政から取り残された問題や、新しく発生した問題を解明し、市民生活に密着した活動を目指す。」、「第二に、市民に、活動を公開し、参加を促し、発言の機会を作り、活動促進を図る。」、「第三に、他団体とも協調をはかりながら、情報の共有と活動の協働」を挙げている。

そして、具体的な本会の活動基調を、(1) さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。「専門性と市民性の融合」、(2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うことなく、広く市民に拓かれた活動をめざす。「公開型地域総合型学習の企画と実践」、(3) 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。「課題解決のに向けたプロセス重視」の3つを掲げ今日に至っている。こうした「活動基調」をもとに、これまで一貫して「啓発学習活動」、「調査研究活動」、「実践活動」の3つの活動の柱立てを以て展開をしてきた。

「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用で「見える化」「わかる化」による福祉文化の構築

これまで、本会の活動は、一貫して、世代や領域を超えた“ご近所福祉の再構築”を語り合ってきた。

まだまだ語り続けたい“ご近所福祉論議”を、昔から今日まで、四季を通じた日常生活のあそびや学びの中に取り入れられている「かるた」の創作に取り組み、多くの若者から寄せられてご近所の現状を読み札にし、福祉漫画家・法月理栄様による絵札により誕生した「若者発 ご近所福祉かるた」。2020年度は改めて、幼児から大人まで、身近な地域の実践活動の場や行事の中で、「地域総合型学習」として楽しみながら活用し、安心して暮らし合う生活圏域づくりをめざす展開を考えたい。

5年前に「若者発ご近所福祉かるた」制作を試みるに当たり、「作成過程」を次のようにとらえていた。

- (1) 「各種公開型研修会」等様々な学び合いの中から、研修参加者に「読み札」を現実の社会を直視しながら語り合う中で、創作していくプロセスを重視し、地域の現状と課題を整理する。
- (2) 「共創社会実現研究会」を設置し、事業の企画の具体的な展開方法について提案をする。また、地域総合学習のあり方を検討し、各地域への普及と活用を提案する。
- (3) 「絵札」は、関係者のアイデアをもとに協議をするとともに、具体化に向けて、専門家のアドバイスで実現する。



【2020年度の主な活動の柱立て検討】

③

1. 関連団体との協働による実践活動
全ての世代が「ほっとするご近所づくり」に関心を持つ呼び掛けをする。
2. 「自主的共創社会実現研究会」の開催
「定例委員会」を「自主的共創社会実現研究会」に位置づけ、市民・会員相互の情報交換の場とする。
3. 公開型研修会の開催
「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みとしての「公開型研修会」を開催する。
4. 「第19回静岡県福祉文化研究セミナー」の開催
本県で「第13回学会大会」開催後、「地方発福祉文化の創造」をめざし、2020年度は第19回開催。
5. 調査研究活動 *テーマ『ご近所福祉その意識と実態調査』の実施
「静岡福祉文化を考える会」活動のメイン事業として継続して取り組む。
6. 広報・啓発活動 No.129からNo.132まで4号予定
機関紙発行計画」に基づき『Our Life』の発行
7. 関係・団体等との連携

事務局日誌拝見（11月16日～1月6日）

- 11/16 ▶ 第200回委員会・第18回静岡県福祉文化研究セミナー開催（学会大会案内）
▶ 第7回焼津福祉文化共創研究会開催 「Our Life 125号」発行
- 11/17 ▶ 学会大会発表の会員4名の最終打ち合わせ開催（発表資料の準備その他）
- 11/30 ▶ 第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会開催（@愛知県名古屋市）11/30, 12/01（2日間）
✓ 11月30日（1日目）、全体シンポジウムにおいて、本会の高齢者関連実践発表紹介
✓ 12月01日（2日目）、実践発表において、「調査」（河野会員）、「ご近所福祉」（望月旬子会員）、「ネットワーク」（望月隆仁会員）をそれぞれ発表する
▶ 「沖縄福祉文化を考える会」、「三重県内地域包括支援センター」に、「若者発 ご近所福祉かるた」を学会大会において紹介し、強い要望により各1セット寄贈する
- 12/04 ▶ 焼津福祉文化共創研究会通信第4号発行
- 12/11 ▶ 学会大会資料30部の提供をいただき、県内関係機関・団体等に「福祉文化」広報啓発活動につなげるとともに、本会24年間の福祉文化実践活動を紹介する
▶ 第8回焼津福祉文化共創研究会開催
- 12/15 ▶ 第3回公開型研修会（1月11日開催）のマスコミ情報提供と、関係者に40通案内文書を発送
▶ 沖縄福祉文化を考える会、三重県内地域包括支援センターより、寄贈した「かるた」のお礼と共に、このたび管内で紹介したところ、今後計画的に有効に活用する旨の連絡がある
- 12/17 ▶ 「Our Life No.126」発行完了 「Our Life No.125」と共に「Our Life No.126」発送作業
▶ 焼津市港第14自治会第12町内会主催「歳末助け合い運動」助成事業に協力
- 12/20 ▶ 「Our Life No.127」発行企画書作成&発送

◇ 福祉文化実践活動への参加のお誘い ◇

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の1996年9月1日に発足し、2019年度に24年の節目を迎えました。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、「公開型研修会開催」「調査研究活動」「現場実践研修活動」を展開しています。さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

「静岡発 福祉文化の創造」の活動を定着化してまいります。

- ◇ 会費：社会人 3,000円 大学生以下 1,000円
- ◇ 問い合わせ：〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

編集後記

令和2年を迎えた。いよいよ、今年は25年目の節目となる活動年。日本福祉文化学会結成30周年を迎えましたが、本会は、その4年後に、学会の強い要請と共にご支援をいただき、第11回学会現場セミナーを浜松市で開催した直後に誕生した。結成当時、学会会員10名を中心に、約40名の考える会員が、「地方発 福祉文化の創造」を合言葉に、県内東へ西へと、現場に学ぶ「宿泊型公開型研修会」を精力的に開催した。今、改めて、「福祉文化元年」として、お互いに支えあう地域づくりをめざして、「福祉文化実践活動」にトライ!

Tel: 054-367-2878 Fax.: 054-367-2884

④